

ミヤマビャクシン

ヒノキ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

Juniperus chinensis L. var. *sargentii* Henry

国カテゴリー

該当なし

選定理由

園芸用採取で激減し、ごく限られた危険な場所に生育する。(現況:R-)

形態

葉は深緑色で鱗状葉と針状葉の2形あってほとんどが鱗状葉である。鱗状葉は皆同形で微細な腺毛を散生する。枝に表裏の別がない。球果は径約5mm粉白色を帯びる。

国内分布

北海道、本州、四国、九州(屋久島以北)。

県内分布

南加賀区、白山高地区。

生態など

常緑低木で幹は地表を這うかまたは崖からたれる。花は6月に咲き、球果は翌年に成熟する。

生育環境

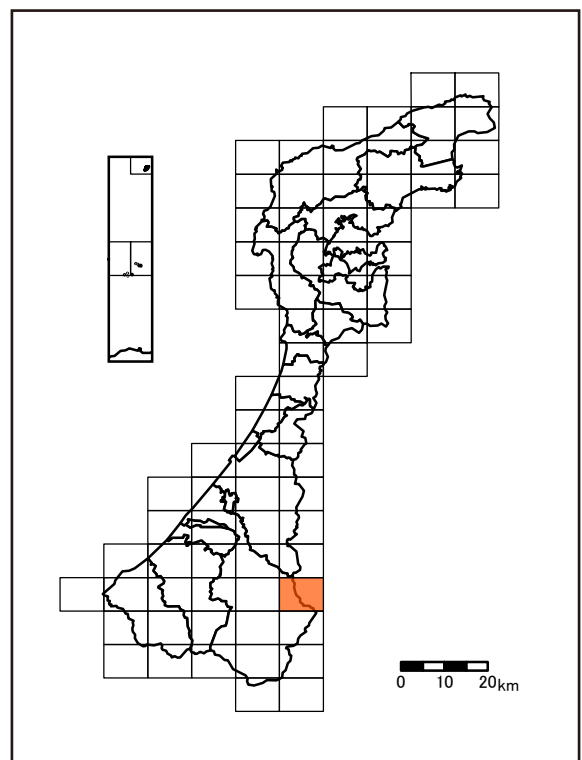
山地帯および亜高山帯の岩場、北地では海岸に生育する。石灰岩上に多い。

危険要因

産地局限、その他(自生地の崩壊)。



白井伸和・2008年10月17日・笈ヶ岳



県内の分布